

学びのスタイル

MY LABORATORY INFORMATION



RUIKO'S
RECOMMENDED
コンクリート材料
研究室

コンクリートのひび割れのメカニズムの解明や、コンクリート構造物の経年劣化の予測技術、非破壊によるコンクリート内部の診断技術等に関する研究を行っています。コンクリートの練りやフィールド調査等、身体を動かすことの多い研究室です。



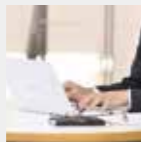
HOUU'S
RECOMMENDED
人文科学研究科
博士後期課程

旅行好きで多くの港を訪れました。港は経済が活発なところが多く、どのように発展していったのが興味を持ち始めたことが経済地理学に出会ったきっかけです。研究室では、現地研究やフィールド調査で多彩な土地に行くことも多く活発な活動が多いことも魅力ですね。



YASUO'S
RECOMMENDED
経営学研究科
博士後期課程

戦前期の日本の会計について研究していますが、先生からは、戦前期の日本の会計を知る上で必要な、英国、ドイツ、アメリカの会計規制についても指導を受けています。ただ、研究に生きているのは実は先生の昔話かもしれません。当時を知る上でのヒントをいただいています。



決めることができました
自分が進みたい道を
高めることにより
大学院で専門性を

デザイン工学研究科
都市環境デザイン
工学専攻
修士課程2017年度修了
日本工営株式会社 勤務

学部卒業生

渡部 瑠依子

大学院での研究が自分のやりたいことを知るきっかけになりました。診断士や技術士の資格取得を目指し、将来的にはドクターコースも視野に入れています。

私がコンクリートに興味を持ち始めたのは、学部生時代に受講した溝淵利明教授の講義がきっかけです。コンクリート材料学の基礎知識の習得から、現場環境下に合わせた配合設計を行いました。溝淵教授が講義中に話していた「コンクリートは生きているんだ」という言葉は大変印象的です。講義を受講する中で、コンクリート構造物の維持管理に興味を持ち、大学院では、維持管理に欠かせない非破壊検査法に関する研究を行いました。コンクリートは生きているからこそ、定期的な検査を行い、状態を把握し適切な対策や措置をとる必要があるんだということに気づき、コンクリートのお医者さんという気持ちで、朝から晩まで研究に励みました。

また大学院生活では、国内だけでなく海外での学会発表、研究室の後輩指導、講義のTA等、学部生ではできなかった多くの経験を積むことができ、人として大きく成長できました。

大学院を卒業し社会人になった今は、仕事として、コンクリート構造物の調査・点検業務に携わっています。大学院に進学し、溝淵教授のもとで研究を行ったからこそ、心から楽しいと思える仕事に出会えたと、日々感謝しながら過ごしています。

履修モデル <昼間開講(修士課程)>

	1年次	2年次
月	春学期 都市環境デザイン工学基礎2 秋学期 流水域マネジメント	
火	春学期 ライフサイクルマネジメント 春学期 空間情報デザイン 秋学期 ライフサイクルマネジメント	構造解析と設計
水	秋学期 水域環境の保全	
木	春学期 秋学期 自然・環境デザイン	
金	春学期 景観デザイン概論 都市環境デザイン工学基礎2 秋学期 水循環システム概論 耐久性力学	
土		
通年	都市環境デザイン工学研究1-2	都市環境デザイン工学研究3-4 修士論文

履修モデル <昼夜開講(修士課程)>

	1年次	2年次
月	通年 地理学現地研究Ⅰ、Ⅱ 秋学期 日本の思想・西欧の思想Ⅱ	地理学現地研究Ⅱ
火	春学期 Academic E (Effect W) A Academic E (Oral Pro) A 社会経済地理学研究Ⅰ 秋学期 Academic E (Effect W) B Academic E (Oral Pro) B 日本の産業風土Ⅱ	修士論文
水	春学期 日本語論文作成基礎AⅠ 秋学期 日本語論文作成基礎AⅢ	
木	通年	
金	春学期 日本語論文作成基礎AⅡ 日本の環境論Ⅰ 国際日本学演習Ⅰ 秋学期 日本語論文作成基礎AⅣ 日本の環境論Ⅱ 国際日本学演習Ⅱ	日本の環境論Ⅰ 国際日本学演習Ⅰ 日本の環境論Ⅱ 国際日本学演習Ⅱ
土	通年 国際日本学合同演習	国際日本学合同演習

法政大学大学院への進学を決意した理由は、出身校である中国四川外国語大学と法政大学が提携しているため、学部生の頃から説明会や実際の講義を体験できたことが要因です。私の専門は経済地理学ですが、フィールドワークが多く、現地研究のためさまざまな地域に足を運びました。福岡の久留米市での調査では衝撃を覚え、一番印象深く覚えています。現地では先生から「カッパの調査をする」と言われ、最初は地理学と土着や民俗学がどうしても自分の中でつながらずとも驚きました。しかし、調査を進めていくうちに、土地の風土や歴史が地理学と重なる部分もあり、研究するためには、一方の視点だけでなく別の視点からも俯瞰する重要性を実感できました。

現在は、中国の民間企業の本社を対象に経済的中枢管理機能について研究しています。中国の沿岸部は経済特区でもあり、発展が進んでいる反面、都市研究(特に本社を中心とする「総部経済」についての研究)は2002年から始まるなど比較的新しい分野であり、余地が多分にあります。しかし、調べなければならないことが大変多く、しっかりと分析を進めるために、日々現状把握を行う毎日です。法政大学は学部生、院生とも留学生が多く、国際色豊かな雰囲気が魅力。文化背景の違い仲間たちとの会話は新しい気づきとともに刺激を与えてくれます。

留学生

毛 鳳雨

中国四川外国語大学卒業後、法政大学大学院入学。

人文科学研究科
国際日本学インスティテュート
地理学専攻
博士後期課程在学中
(修士課程2017年度修了)



見聞が広がりました。
将来は大学教員が目標

現地研究の繰り返しで

時代の最先端の研究は、
開拓であり
クリエイティブな
楽しみがある

経営学研究科
経営学専攻
博士後期課程在学中
(修士課程2016年度修了)

社会人

高野 裕郎

経営学専攻修士課程(アカウンティング・ファイナンスコース)で得られた知識と経験が、仕事の基礎力を向上させたと感じています。

会計を深く学びたいと思い立ち、大学院を探しはじめましたが、平日夜・土曜日に講義が行われていることに加えて、コース制と修士論文を通じて特定の分野を深く勉強できることから、法政大学大学院を選びました。

講義は、各分野の基礎的な内容を理論的に学べることに加えて、実務家である同じ学生のコメンタも有益でした。また、別コースの講義も履修することで視野が広がりました。さらに、修士論文の執筆では、知識を得るだけでなく、専門書・論文等を調べる力、構造的な文章を組み立てる力を養えました。このように修士課程では、想像以上に広い範囲の力がつけることができたという手応えがあります。

博士後期課程に進学した現在は、戦前期における日本の会計制度について研究しています。毎日の仕事がある中で研究を進めることは大変ですが、新たな知識と気づきを得られるのはやはり楽しいです。

履修モデル <夜間開講(修士課程)>

	1年次	2年次
月	春学期 会計学基礎 経営学基礎 秋学期 国際会計論	
火	春学期	企業家史
水	春学期 秋学期	
木	春学期 秋学期	WS(アカウンティング・ファイナンス) アカウンティング・ファイナンス特殊研究
金	秋学期 財務戦略論	
土	春学期 ミクロ経済学A 秋学期	地域経済研究 アカウンティング・ファイナンス演習 経営組織論 アカウンティング・ファイナンス演習
通年	秋学期	修士論文